

FANTIC RACING

ファンティック・レーシング・ニュース
2024年10月20日

ダニエルズ・ダイアリー：特別な2024シーズンが終わって、、、



24シーズンが終わりを迎え、ファンティック・アンバサダーのジェーン＝ダニエルズはそのブログに「特別な1年」と題して彼女のチームメイトたちを讃える一文を寄稿しました。ジェーン自身にとっても例年とは違う、しかし違う意味での経験豊かな年にもなったのでした。

2024年シーズンのエンデューロGPはフランスで幕を下ろしました。ファンティック・チームにとっては最高の結末とともに。ピエトロ＝スカルディーナはユース・クラスで1-1というパーフェクト・ウィンを飾り、チャンピオンシップでもシーズン2位を手にしたのです。今年1年の彼の成長ぶりはまさに目を見張るものであり、来る2025年の125クラスでは間違いなくタイトル争いをする一人になるだろう強いライダーとして、この舞台に戻ってくるのが期待されます。ケビン＝クリスティーノはトレーニング中の足の怪我にもかかわらず3-1という結果でまとめて見事にジュニア-1の世界チャンピオンに輝きました。最終ヒートの勝利でチャンピオンを獲得した彼と2番手との差はわずか1ポイントだったのですから、如何にこれが素晴らしいことだったかお判りいただけると思います。ケビンは怪我のため2サイズも大きなブーツを履いて最終戦に臨んだんですよ。そんなハンデさえも全く感じさせないレースでした。これはまた、私たちの夢や目標に向かって走り続けているとき、どんなこともそれを遮ることはできないってことを証明したようなものです。2人のライダーには本当に心からの祝福をささげたい、、、この1年を通じてコンスタントに好成績を残し、素晴らしいレースを戦い抜いてのチャンピオンシップだったことをね。

継続性を言うならば、ジェド＝エッチェルズもまたその一人。最終戦、E2クラスを5-5でまとめたジェドは年間ランキングも6位にまとめ上げ、初めてのこのクラスへの挑戦としては素晴らしい結果を残したとあっていいでしょう。E3のアルビン＝ノルビンも同様に、最終戦を9-7で終えながらもランキング5位。ジュニアからステップアップしたばかりの1年目のE3でこの成績は立派というほかに言葉がありません。アクセル＝セムは1日目は3位。2日目こそ7位でしたがシーズンをジュニア2クラス、そしてジュニア総合でもランキング2位で締めくくりました。ライダーもチームも年間を通じて本当に厳しく戦い抜きましたから、この成績はそれに十分に報いるものとなりました。

こちらイギリスでは、英国エンデューロ選手権の最後の2戦を終えたところです。実際にライダーサービスに加わり、サンドイッチを作ったりマシンチェックを行ったり、スペシャルテストに足を運んだり、私にとっても特別なレースになりました。アルバートはファンティックXE300で今シーズンを戦い、エキスパートE3クラスの年間2位を収めたのです。

すべてのレースが終息し年間チャンピオンをかけた戦いが終わりました。今年を振り返ると、私にとってはエンデューロレースをこれまでとは全く異なる視点から見る事ができた1年となりました。単なるコンペティターだった時よりもはるかに多くのことを、ライダーサポートではやらなくてはいけないってことを身に染みて理解した年でもあります。走行ラインを見極め、チェックして指示し、スナックやサンドイッチを作り、ハイドレーションを満たし、必要な用品や工具をバックパックに詰め込んで週末を走り回することは、レースを走ることと同じかそれ以上に大変なことだったのです。この経験は、間違いなく私の目を全く違う角度から大きく開かせてくれました。ライダーたちは、私たちサポートを気遣い、天候を予測し、その先を読み、私たちとともに走りました。ライダーたちが手に入れたメダルは、その努力にまさに相応しいものでしたし、彼らは、そう、どのライダー一人をとっても、私たちの様なサポートなしにはこの偉業をなしえないということに気づかせてくれたのです。私のことも助けてくださった多くのサポーターのみなさまに、本当に心からの感謝をささげます！

同時に、ファンティック・ラリーチームはモロッコに出かけ、レースに出ない私は毎日そのリザルトに一喜一憂する楽しみを見つけて過ごしました。トマソーモンタネリやジェレミー=ミロイア、そしてサンドラ=ゴメスの3人がファンティックの旗印のもとに走り、マシンのパフォーマンスを見せるのを見るのがどんなに楽しい時間だったことか。でもわずか1年前、私は4回目のエンデューロ世界チャンピオンを獲得し、すぐにモロッコに飛んでダカールへの事実上の予選であるこのレースを戦ったんですよね。今年は私自身のファミリーとともに過ごしていますけど。



出産予定日が近づき、私たちの家は生まれてくる子供を迎え入れるために、それはそれは気持ちのいい、快適な空間を作り上げています。これまでのオフィスとはけた違いにね。部屋を仕上げるときにペイントローラーを手に入れて、この機会に家中を塗りなおしちゃいました。これまでの生活ではとてもそんな時間の余裕はなかったから、本当にちょうどいい機会だと思ったんです。そろそろDIYも終わろうとしています。筆をおいて、新しいファミリーを迎えて、この先何年かはきっとペイントなんて考える余裕もない世界が待ち構えていますからね！

